

## 学内共同教育研究施設

(平成26年5月1日現在)

施設	設置年度	設置目的
生物環境利用推進センター	平.23	本学の教員その他の者の研究又は教育の用に供し、あわせて新たな生物環境を用いた産業創成に係る展開及び橋渡し研究を支援する。
熱帯農学研究センター	昭.50	本学における熱帯農学に関する研究及び教育を行う。
アイソトープ総合センター	昭.55	アイソトープ関係の教育研究を行うとともに、アイソトープの安全管理を総括し、アイソトープを利用して教育研究を行う教員その他の者の共同利用に供する。
中央分析センター	昭.57	本学教員その他の者が研究教育上必要な分析及び試料作成を行う。
留学生センター	平. 4	外国人留学生に対する日本語、日本文化・日本事情等の教育及び修学・生活上の指導助言を行う。また、海外留学を希望する学生に対する修学・生活上の指導助言、留学生交流の推進に関する業務を行う。
総合研究博物館	平.12	学術標本の収蔵、分析、展示・公開及び学術標本に関する教育研究の支援並びにこれらに関する調査研究を行うとともに、学内外の教育研究活動に寄与する。
システムLSI研究センター	平.13	システムLSIの応用・設計・製造・検査に関する技術を総合的に研究し、その学問体系の確立と高度情報化社会における当該技術の利用について調査研究を行う。
国際宇宙天気科学・教育センター	平.24	宇宙天気科学の調査研究を行い、宇宙天気科学の国際的な研究・教育活動を行う。
韓国研究センター	平.14	韓国を中心とする朝鮮半島地域の学際的で総合的な研究を行うとともに、国内外の関連研究者との共同研究をコーディネートし、韓国研究の結節点として機能する。
医療系統合教育研究センター	平.15	医学、歯学、薬学及び保健学の分野の教育における共通基盤教育(以下「医療系統合教育」という。)に関する研究を行い、その改善充実に資するとともに、医学部、歯学部及び薬学部が行う医療系統合教育に係る企画及び実施を支援する。
超伝導システム科学研究センター	平.15	超伝導システム科学に関する基礎から各種情報・エネルギーシステムへの応用までを目指した研究・教育を包括的に行う。
感性融合デザインセンター	平.15	コンテンツ創成科学部門とユーザーサイエンス部門の2つの教育研究部門からなり、芸術的感性の諸科学への融合による新しい価値の創造と有為な人材の育成を目的とした教育及び研究を行う。
産学連携センター	平.15	本学と産業界との研究協力及び学術交流を推進するとともに、地域社会への貢献に資することを目的とする。
超顕微解析研究センター	平.26	物質の微細な構造と状態に関する顕微解析研究を学内外の連携の下に推進し、顕微解析の国際的研究拠点を形成することを目的とする。
環境安全センター	昭.57	本学の教育研究活動によって発生する廃液類の適正処理、廃薬品等の廃棄物処理に関する指導や指示、化学薬品類の取扱指導とシステムの管理、環境・安全に関する指導及び教育。伊都地区給水センターの水質管理。
西部地区自然災害資料センター	平. 元	九州地区及び山口県等における自然災害に関する資料を収集・整理し、本学の教員その他の者の求めに応じて資料を検索・提供するとともに、自然災害に関する研究を行う。
大学文書館	平.17	本学に関わる法人文書等の資料を収集・整理・保存し、大学及び大学の歴史に関する調査研究を行うとともに、その資料を、学生、職員その他一般の利用に供する。
ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター	平.22	社会のあらゆる分野において新たな価値創造に積極的に挑戦するリーダー人材を育成するために必要なアントレプレナーシップ関連の教育及び研究を実施するとともに、ベンチャー・ビジネスの萌芽ともなるべき独創的な研究開発を支援する。
アドミッションセンター	平.15	アドミッションオフィス方式(総合評価方式)入学試験の実施を行う。
水素エネルギー国際研究センター	平.16	水素の製造・供給、利用及び安全評価に関する技術を総合的に研究し、その学問体系を確立するとともに、環境と調和した高度エネルギー利用社会における当該技術の利用について調査研究及び高度人材育成、技術の確立を行う。
未来化学創造センター	平.17	未来化学の拠点として、ナノテクノロジー、フォトニクス及びバイオテクノロジーを基盤とした新産業創出のための新規化学技術に関して集中的かつ有機的連携のもとで研究を推進し、その学問体系の確立と持続可能な未来社会のための化学技術の実用化研究を行う。
バイオアーキテクチャーセンター	平.17	生物機能の解析、高度活用及びデザインに関する技術の総合的な研究開発を行い、生物機能デザイン等の技術に基づいた物質生産プロセスの開発拠点を構築するとともに産官学連携を推進する研究開発の場を提供し、社会・産業へ貢献する。
鉄鋼リサーチセンター	平.17	鉄鋼の製造技術や新しい材料開発に関連して、大学と企業が共同で解決すべき課題について産学連携で取り組み、得られた研究成果を実際の鉄鋼生産に結びつけていくための国家プロジェクト研究や大型プロジェクト研究に展開させるとともに、鉄鋼関連企業において即戦力となり得る人材の育成輩出を目指す。
低温センター	平.18	低温実験等に不可欠な液体ヘリウム、液体窒素等を安全かつ安定的に供給するとともに、寒剤利用者に対する保安教育及び寒剤利用者の低温実験等の支援を行う。
加速器・ビーム応用科学センター	平.19	量子ビームを安定的に供給し、量子ビームの利用者に対する教育研究上の支援及び安全教育を行うとともに、加速器及び量子ビームに係る研究開発を行うことを目的とする。
稲盛フロンティア研究センター	平.19	人類が安心して快適に生活するために必要となる理想の科学技術について、時代に先駆けて研究提案できるようなフィールドを提供し、人に優しい科学技術を確立することを目指すとともに、センターにおける研究活動を通じて、将来の科学技術を担う人材を育成する。
炭素資源国際教育研究センター	平.20	国内外における産学官連携の下に、石炭等の炭素資源を地球環境に負担を与えることなくエネルギー及び化学原料として有効利用するための学際的で総合的な研究を行うとともに、将来において当該研究を担う人材を育成することを目的とする。
シンクロトロン光利用研究センター	平.21	シンクロトロン光を活用したマテリアル研究等を通じ、人類が直面するエネルギー・環境問題の解決のための研究を推進し、この分野における人材を育成するとともに、他機関との共同研究等を推進し、センターの共同利用を促進することを目的とする。

(次頁へ続く)

施設	設置年度	設置目的
先端融合医療創成センター	平.21	医薬分野と他分野との医療に関する先端的融合研究を実施するとともに、当該研究分野における産学官連携及びオープンイノベーションを推進し、人々の健康維持と安心安全な社会の実現に資することを目的とする。
極限プラズマ研究連携センター	平.21	非平衡・極限プラズマ研究を体系的に推進するとともに、学内外のプラズマ科学や関連理工学の先端科学研究と連携し、非平衡科学、核融合プラズマの制御及びプラズマ非線形科学について研究することを目的とする。
有体物管理センター	平.22	本学において研究成果としての創作又は取得された有体物(著作物は除く)の管理、有効活用及び移転に関する研究開発を行うとともに、成果有体物を全学的に管理及び活用することにより、本学の教育研究の進展に資する事を目的とする。
分子システム科学センター	平.22	化学を基盤として優れた機能を有する分子システムのデザイン・構築と応用に関する研究を強力に推進し、革新的な未来材料を生み出すための分子システム科学分野と国際的最先端研究中枢を構築する。
日本エジプト科学技術連携センター	平.22	エジプト日本科学技術大学(E-JUST)と連携して、E-JUSTの教育研究を支援するとともに、エジプトとの研究協力及び学術交流を推進することを目的とする。
プラズマナノ界面工学センター	平.22	プラズマとナノ界面の相互作用に係る基礎と応用に関する体系的な研究を推進する。
先端医療イノベーションセンター	平.22	産官学が協同体制を構築しながら、先端医療分野における研究開発から臨床研究・臨床試験までを一貫して実施するオープンイノベーション拠点として、企業参加型の臨床研究の円滑な推進、臨床導入の橋渡し、治験を含む臨床試験の支援、教育訓練による人材育成等を行うことで、我が国における医療・福祉環境の向上と国際競争力を有する技術力の保持・発展及び地域経済の活性化を図る。
EUセンター	平.22	本学の学生及び職員がEUに関する知識と理解を深めるための活動を行うとともに、EUの学術拠点であるEUインスティテュート・イン・ジャパン九州(EUIJ九州)の運営を行う。
免疫機構研究センター	平.22	免疫細胞の動態や分化・増殖、免疫学的記憶といった免疫応答の根幹をなす様々な細胞高次機能を制御するメカニズムを解明し、その理解に立脚して、免疫難病の新しい治療法、予防法を開発することを目的とする。
環境発達医学研究センター	平.22	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)を安定的に実施するとともに、エコチル調査から得たデータを基にした疾患発症メカニズムを解明し、環境発達医学を確立することを目的とする。
癌幹細胞研究センター	平.22	癌幹細胞及び癌幹細胞微小環境を標的とした新しい腫瘍制御技術を開発することを目的とする。
リスクサイエンス研究センター	平.23	有害な化学物質をはじめとする多種多様なリスク要因について、統括的かつ学際的な教育研究を行うリスクサイエンス学を確立する。
ヌクレオチドプール研究センター	平.23	環境ストレスによる修飾ヌクレオチドの生成が引き起こす生体障害を「ヌクレオチドプールの恒常性の破綻」としてとらえ、ヌクレオチドプールの恒常性維持に寄与する分子の同定・解析を行い、その生物学的重要性を解明することを目的とする。
エピゲノムネットワーク研究センター	平.23	エピゲノムを網羅的に解析する最先端技術を駆使し、発生、疾患等の過程におけるエピゲノム変化を詳細に記述し、様々なエピジェネティック修飾やその調節因子が構成する制御ネットワークを解明することを目的とする。
アジア保全生態学センター	平.23	アジアを主たる対象に地球規模での生物多様性変動について、最先端の観測及び評価技術並びに生物多様性の保全及び持続的利用を一体化した国際的かつ学際的な教育研究を行うアジア保全生態学を確立する。
ヒトプロテオーム研究センター	平.23	プロテオームを網羅的に解析する最先端技術を駆使し、発生、疾患等の過程におけるプロテオーム変化を詳細に記述し、様々なプロテオーム修飾やその調節因子が構成する制御ネットワークを解明することを目的とする。
創薬育薬最先端研究基盤センター	平.23	アンメットニースの高い難治性疾患を対象とした創薬及び育薬に関する最先端技術の研究開発を通じて、独創的な新薬開発に貢献するとともに、薬学教育の発展に寄与することを目的とする。
ユネスコ&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター	平.23	ムハマド・ユネスコ氏が提唱するソーシャル・ビジネスを中心に、国内外における多様な形態のソーシャル・ビジネスの研究を行うとともに、この分野における人材の育成及び社会・地域との連携活動を推進し、国内外における社会的問題の解決に貢献することを目的とする。
バイオメカニクス研究センター	平.23	バイオメカニクス、生体材料学及び臨床医療工学を基盤にして、生体の巧みな機構を解明し、その成果を反映させて優れた機能を有する医療デバイスの実用化技術を開発することを目的とする。
次世代燃料電池産学連携研究センター	平.23	本学が保有する先端観察解析手法や幅広い温度領域に対応した革新的な材料のシーズを活用し、産学官連携により次世代型燃料電池の実用化に向けた研究開発を推進することを目的とする。
合成システム生物学研究センター	平.23	合成生物学及びシステム生物学の知識及び最先端技術を統合し、人工遺伝子回路を組み入れた合成代謝プロセスの設計、細胞内の生体分子ネットワークのシステム解析及び生命の機能発現機構をモデルにした生命創成システムの設計に関する基礎研究及び応用研究を行うことを目的とする。
科学技術イノベーション政策教育研究センター	平.24	科学技術イノベーション政策に関する教育研究を行うことを目的とする。
最先端有機光エレクトロニクス研究センター	平.24	有機光エレクトロニクスに関する学理を究明し、その科学・技術基盤を確立するとともに、次世代の有機半導体デバイスの研究開発を推進することを目的とする。
国際知的財産法・国際私法センター	平.24	知的財産をめぐる国際私法的諸問題を分析・体系化するとともに、分析方法論を開発するための研究を行い、新しく顕れつつある問題を分析し解決策を提示する先端的かつ国際的な研究・教育拠点を形成することを目的とする。
先端素粒子物理研究センター	平.24	最先端の素粒子物理学の研究活動及び次世代の素粒子実験計画の推進活動を行い、素粒子物理学の国際的な研究・教育拠点を形成することを目的とする。

(次頁へ続く)

歴代総長／運営組織

役員等／経営協議会委員

教育研究評議会評議員

沿革

学府・研究院制度について

大学の組織

部長局長等

教育研究組織

学生定員及び在籍学生数

入学状況

学位取得者数等

学部卒業・大学院修了後の進路状況

教職員数等

社会との連携

国際交流

収入・支出

研究プログラム及び教育プログラムの採択状況

伊都キャンパスへの移転

キャンパスマップ

土地・建物

諸施設

案内図



施設	設置年度	設置目的
食品機能デザイン研究センター	平.24	食品因子の保健作用を安全かつ効果的に享受するための方法を明らかにし、国民の健全性の維持及び増進に資する機能性食品の開発を行うとともに、食品機能科学の学術研究拠点として先進的な展開を図ることを目的とする。
グリーンアジア国際リーダー教育センター	平.24	博士課程教育リーディングプログラムの実施を推進することを目的として設置し、グリーン化と経済成長を両立するアジアの実現に資する理工系リーダーの育成を行う。
分子システムデバイス国際リーダー教育センター	平.24	産学官との連携の下、本学の学位プログラムである「分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成」の円滑な実施を図ることを目的とする。
次世代蓄電デバイス研究センター	平.24	革新的次世代型二次電池の実現に向け、新たな機能性材料及び充電原理の開発を進めるとともに、その実現に適した材料の機能制御に関する研究を総合的に推進し、次世代蓄電デバイスの国際的研究拠点を形成することを目的とする。
革新的マーケットデザイン研究センター	平.24	マーケットデザインの体系的な研究を計算機科学の立場から推進し、文理融合を達成したマーケットデザインの国際的研究拠点を確立することを目的とする。
オルガネラホメオスタシス研究センター	平.24	オルガネラスタシス(個々のオルガネラのホメオスタシスに加え、複数のオルガネラ間のコミュニケーションの統合による細胞機能制御をいう)という新たな観点から細胞機能発現調節機構を解明し、細胞機能を制御する基盤技術を確立するとともに、細胞機能発現制御及び固体恒常性維持機構の解明を担う次世代の若手研究者を養成することを目的とする。
水素材料先端科学研究センター	平.25	水素材料の強度特性及びトライボロジー特性並びに水素物性等の基本原則を解明し、その科学的・技術的基盤を確立するとともに、産学官による水素材料の研究開発及び開発支援等を通じ、水素利用の安全性の確立と経済性の向上に寄与することを目的とする。
次世代経皮吸収研究センター	平.25	新たな経皮吸収投与方法の開発を進めるとともに、薬物送達用材料の機能設計に関する研究を総合的に推進し、次世代経皮薬物送達システム開発の国際的研究拠点を形成することを目的とする。
アジア埋蔵文化財研究センター	平.25	「文化財調査法開発」「精密分析」「歴史情報研究」の三部門で構成され、学内だけでなく東アジア各地における埋蔵文化財に対して、最先端の調査研究を行い、東アジアにおける埋蔵文化財の研究拠点を形成する。
エネルギー基盤技術国際教育研究センター	平.25	多種多様なエネルギーを利用するためのエネルギー変換技術、エネルギー貯蔵技術及び省エネルギー技術(以下「基盤技術」という。)に係る材料、デバイス及びシステムの開発並びに自然エネルギーの利用実証研究を集中的かつ総合的に実施し、エネルギーの効率的利用を支える基盤技術の国際的な研究拠点を形成することを目的とする。
キャンパスライフ・健康支援センター	平.25	学生及び職員の心身の健康増進、充実した修学環境の確保に関し、専門的な立場から支援することを目的とする。
アーキテクチャ指向フォーマルメソッド研究センター	平.25	産学連携の下で、ソフトウェア開発におけるフォーマルメソッドの適用性を高め、安心安全で高品質のソフトウェアの効率的な開発方法論に関する体系化を行うとともに、その支援ツールの開発を通して実用性を図ることによって、ソフトウェア工学の発展に寄与する国際的研究拠点を確立することを目的とする。
味覚・嗅覚センサ研究開発センター	平.25	味と匂いのセンシングにより新たな情報、価値等を創造し、安全・安心な社会の実現に資するとともに味覚と嗅覚に関する総合的な学問体系を構築することを目的とする。
持続可能な社会のための決断科学センター	平.25	産学官との連携の下、本学の学位プログラムである「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」の円滑な実施を図ることを目的とする。
3D/4D構造材料研究センター	平.25	物質内部の複雑かつ動的な現象に直接アプローチ可能な3D/4Dイメージング技術(3D画像の連続的観察をいう。)を基盤とした材料開発の新しい技術体系を創成するとともに、各種構造材料の設計、評価及びプロセスの高度化に応用するための研究を総合的に推進することにより、構造材料評価の国際的研究拠点を形成することを目的とする。
アジア太平洋未来研究センター	平.25	アジア太平洋地域に関する総合的・学際的な研究を行うとともに、国内外の高度で多様な知性を結集して研究を行い、アジア太平洋地域社会の未来の開拓及び発展に広く貢献することを目的とする。
循環器病未来医療研究センター	平.25	難治性循環器疾患の機序の解明と新たな治療法の開発を最先端の生命科学と工学を駆使して総合的に推進し、循環器病未来医療の国際的研究拠点を形成することを目的とする。
大気環境統合研究センター	平.26	大気環境観測データと数値モデリングを統合した次世代の大気環境動態のシミュレーション手法をもとに、大気エアロゾル変動の解析を行い、今後の大気環境シミュレーション研究を先導することを目的とする。
量子ナノスピン物性研究センター	平.26	新奇な量子スピン物性を示す磁性体の探索、各種磁性体と常伝導体、超伝導体、絶縁体等の複合ナノ構造の開発及び極限環境下で発現する新奇な量子物性現象の探索を行うとともに、それらの新物質、新構造及び新現象を用いた革新的スピン応用技術を創出し、ナノスピン物性における世界的研究教育拠点を形成することを目的とする。

## 情報基盤研究開発センター

設置年度	設置目的
平.19	研究、教育等に係る情報化を推進するための実践的調査研究、基盤となる設備等の整備及び提供その他専門的業務を行う。

■ 機構その他の組織

機 構	設置年度	設 置 目 的
高等教育機構	平.18	(1)学部教育及び学府教育に関する共通事項の企画,実施及び支援 (2)教育の質の保証に関する企画,実施及び支援 (3)入学者選抜に関する企画及び支援 (4)学生生活,修学,就職及び進学に関する企画及び実施 (5)大学全体として組織的に行う教育内容・方法等に係る研究や研修に関する企画,実施及び支援 (6)教育改革に関する企画,実施及び支援
学術研究推進支援機構	平.23	(1)学術研究の将来戦略等の策定 (2)産官学連携のための研究戦略及び学術交流の推進 (3)COE形成に相応しい多様な研究グループの組織化の推進 (4)共同研究成果の技術移転の推進
国際交流推進機構	平.14	(1)学術の国際交流の推進 (2)学生の海外留学及び外国人留学生受入れ等の推進 (3)アジアの総合研究等の推進
情報統括本部	平.19	全学的な情報基盤の整備,情報技術を用いた教育研究及び大学運営に関わる業務の総合的な支援を行う。
統合移転推進本部	平.22	統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画を推進する。
基金本部	平.23	九州大学基金による支援助成事業及び基金強化事業を推進する。
広報本部	平.25	広報戦略の策定及び広報活動を推進する。

■ 推進室等

推進室等	設置年度	設 置 目 的
教育改革企画支援室	平.18	本学の教育改革の構想を機動的・積極的に推進し,教育の高度化,個性化,活性化に資するとともに,教育審議会等の任務を支援する。
研究戦略企画室	平.14	本学の戦略的研究企画を機動的及び積極的に推進し,研究の活性化,高度化,個性化を図る。
社会連携推進室	平.15	本学の社会連携の窓口として,社会連携推進戦略の原案作成,社会連携連絡協議会・自治体等との連絡調整,社会連携に関する情報の収集及び提供等に関する業務を行う。
産学官連携本部	平.15	知的財産の創出,取得,管理及び活用をはじめとした,本学における産学官連携の一元的中核組織として,産学官連携を通じて教育研究の活性化・高度化へ寄与するとともに,大学の持つ全てのリソースを駆使して有用な価値を創造し,社会の発展に貢献する。
国際交流推進室	平.14	戦略的国際交流プロジェクト等の企画・立案を行うとともに,総長のリーダーシップのもとで,各国際交流活動を推進するための調整的機能を担う。
教育国際化推進室	平.21	教育の国際化戦略原案の策定,学生交流の推進等,教育の国際化の推進を支援する。
大学評価情報室	平.16	評価及びマネジメントに資する基礎情報の調査・収集・分析による点検・評価活動への支援及び「大学評価情報システム」に関する業務を行う。
新キャンパス計画推進室	平.16	新キャンパス計画の推進を支援する。
環境安全衛生推進室	平.16	安全衛生の推進を支援する。
男女共同参画推進室	平.16	男女共同参画の推進を支援する。
情報環境整備推進室	平.19	情報環境整備の推進を支援する。
統合移転事業推進室	平.22	統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画に係る企画・立案を行う。
国際法務室	平.23	外国の諸機関等との交渉及び契約を支援する。
基金事業推進室	平.23	九州大学基金事業の実施に係る企画・立案を行う。
同窓生連携推進室	平.25	同窓生との連携推進に関する業務を行う。
広報戦略推進室	平.25	広報戦略に基づく広報活動の推進を支援する。

■ 特別経費－研究推進(戦略的研究推進経費)－

名 称	採択年度	目 的
東アジア環境研究機構	平.21	本学の知と技術を統合し,東アジア圏の深刻化する環境問題を実践的に解決するための研究活動を通して,環境人材の育成と持続可能な未来環境の創成に貢献する。

歴代総長/  
運営組織

役員等/  
経営協議会  
委員

教育研究  
評議会評議員

沿革

学府・研究院  
制度について

大学の組織

部局長等

教育研究組織

学生定員  
及び  
在籍学生数

入学状況

学位取得  
者数等

学部卒業・  
大学院修了後  
の進路状況

教職員数等

社会との連携

国際交流

収入・支出

研究プログラム  
及び  
教育プログラムの  
採択状況

伊都  
キャンパスへの  
移転

キャンパス  
マップ

土地・建物

諸施設

案内図